

↳ NPOにおける若手人材の参加と定着

若者が活躍できる組織をつくる

00.はじめに

01. 若者受け入れの前に

- (1) 若者を受け入れるということ
- (2) 組織・活動の状況と人材ニーズ

02. コーディネーターの役割

03. 若者へのアプローチに向けて

- (1) 若者の特性を知る
- (2) 若者参加の仕組みを知る
- (3) 受け入れの場をつくる





Stage

00

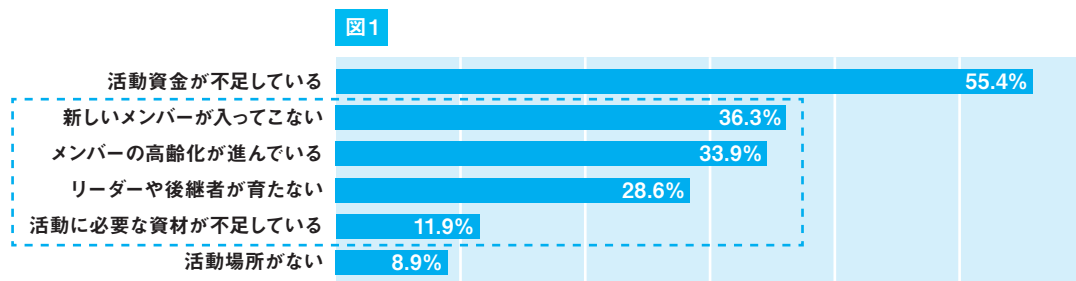
はじめに

今、非営利活動で、 若い世代の参加が課題に

わたしたちは「人や組織をつなぎ、地域を活性化する」ことをミッションに、これまで若者の社会参加・地域参加を促すため、学生を含む若者と地域で活動するNPOや市民団体の出会いの機会を運営してきました。

NPO・市民団体の多くが人材不足、高齢化、世代交代を課題として抱えている。

それらの事業を通して見えてきたのが、多くの団体にとって、活動への若い人材の参加と定着が課題となっているということでした。多くの団体が高齢化に悩み、世代交代を望んでいますが、現実には、その課題に対応できずにいます。その裏づけとして、図1においても、団体が「活動上、困っていること」の上位2～4位に「新しいメンバーが入ってこない(36.3%)」、「メンバーの高齢化が進んでいる(33.9%)」、「リーダーや後継者が育たない(28.6%)」といった項目が上がってきています。



出典：かながわ県民活動サポートセンター編、『県内NPO等の協働・連携に関する調査報告書』、2010年

若者が定着する団体には、それだけの理由がある

多くの労力をかけて、活動に若者が関わる機会をつくっている団体もあれば、そのような取り組みをほとんどしていない団体もあり、若者へのアプローチは団体によってまちまちですが、若者定着の傾向としては、継続して若者がNPOの活動に関わり続けボランティアや有償スタッフとして定着するケースがある一方で、一定の期間や役割を終えると、関わりも

途切れてしまうというケースに二極分化しているように見えます。

若者が定着する団体を見ると、ミッション・ビジョンが明瞭でブレがないのは当然のこととして、さらに、その理念が人材の受け入れのあり方にもしっかりと反映されています。そのため、参加する若者に対して、団体の要望を一方向的に押し付けるのではなく、その人にあった適切な機会や役割を提供することができています。

一方で、なかなか定着が進まない団体は、快く受け入れはするものの、人材の受け入れに関する指針を持たないことに加え、団体の理念とボランティアの活動をうまく結び付けることができなかつたり、あるいは、ボランティアを単なる「無償の作業員」と捉えていたりするため、せっかく関心を持って参加した人も、長く続かず、すぐに離れていってしまいます。

以上のような背景から、わたしたちは「若者定着支援事業」を実施しました。(事業の詳細はP.12を参照)

本冊子はこれまでの活動や「若者定着支援事業」を通して得た知見を元に、NPO・市民団体における若者の参加と定着を進めるための基本的な考え方や体制作り、具体的な手法などについてとりまとめたものです。

それぞれの地域で活躍するNPOと若者とがお互いhappyに結びつく一助となれば幸いです。

読み進める前に、この冊子の特徴について

本冊子は「一度限りでもいいからとりあえず来て欲しい」という参加ではなく、若者の“定着”を目指すことを念頭に作成しました。それは、団体にとって、ある程度の期間をかけて、若者が参加しやすい組織をつくっていくことを意味します。「ボランティアは恋愛と似ている」と言われることがあります。一方向的に自分の要求だけを押し付けていては、恋愛が成就しないように、ボランティアにおいても団体側の要求ばかりを押し付けていては、よい関係はできません。お互いに要求するだけでなく、受容することも必要です。本冊子では、こうした観点から、NPOにおける若者の参加・定着について考察しています。

02

目次 若者受け入れのピラミッド

